

分解対応型バックホウ

分解対応型バックホウは、建設機械の分解・組立による空中運送での配備や無人化施工(遠隔操作)などの機能を備えた車両です。

被災状況により大型の建設機械が陸上運送できない場合や復旧作業で二次災害の危険性がともなう場合に出動し、安全な施工を支援します。



※機械搬入から分解に5日程、組立から試運転までに4日程の工程が必要です。
※現場状況、制約、実施人数、時間等により日数は変わります。

🎯 機械の諸元

主要諸元	
バケット容量	1.0m ³
寸法	全長10m×全幅3.3m×3.3m
総重量	24,600kg
燃料タンク	520L
ブロック	13ブロック(1ブロック最大2.82t) 空輸、4tトラックボディで運搬可能
遠隔操縦	最大約150m 車載用カメラ装置付き、操作用モニター付き
その他	遠隔操縦機能付き

🎯 分解・組立(輸送)



作業状況



オペレータ操縦状況

平成29年(土砂ダム仮排水路設置)【奈良県十津川村栗平地先】

分解対応型バックホウ

活動現場までの運搬の流れ

STEP1 分解

災害対策のため建設機械メーカーに運搬し分解します。



通常時



メーカーに運搬



分解作業

※空輸できる場所までは陸上輸送で運搬する必要があります。

STEP2 輸送・運搬

陸路での輸送が困難な場合、バックホウを14ブロックに分割しヘリコプターにより空輸を行うことが可能です。



トラックによる
陸上輸送



ヘリコプター輸送



70tクレーン
による吊り上げ運搬

STEP3 組み立て

陸路での輸送が困難な被災地ではラフタークレーン、ユニック車等も入れない為カニクレーン（2.9t吊り）×2台で組立作業を実施



クレーン組立



カニクレーンによる組立



※現場状況によっては敷鉄板等も必要